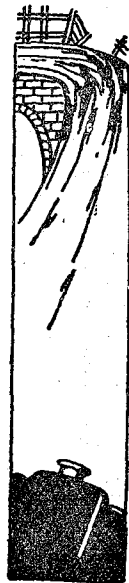




論 説



道路省を設けては如何

田 川 大 吉 郎

何事も分析的解剖的に考へらるゝ、さう考へることを合理的とし、科學的とし、或は近代的と稱して、
貴び、要求する世の中である。政府の組織に關しても、従來の名稱と分類に甘ぜず、一見してその機關
の性質と目的とが分るやうもつと近切なもつと明確な名稱を擇ぶことにせよとの要求が、内外に起
つて居り、起りつゝあるのは自然の狀勢であらう。

つまり行政組織の全體に關する再考慮の促がされつゝあるのは内外の事實であるが、それは大凡
以上の如き概念から來つて居るのであらう。

これらの點から見て、現在の名稱の中最も適切なのは陸軍省海軍省空軍省の類であらうか、或はこ

れを併合して國防省と稱して居る所もあるが、いづれも適切であらう。大藏省は適切であらうか、疑ひなきを得ない。逓信省はどうであらう、それはどれだけの事業を包含すべき役所であらうか、現にどれだけの範圍の働きをして居る所であらうか、疑ひなしとしまし。逓信省に衣食して居る人々は別として一般の人々には蓋然たる解釋をそれに下し得ない、理解を有ち得ない憾みがあるであらう。他の機關に就ても、略ぼ同様のことを言へるが、それは略し、内務省こそいかなる内容、性質の業務を施設すべき機關であらうか、この省の現に有して居る組織と分類とは、國民の目に現に明白であり、確實であり、精當であらうか。

二

英國の内務省には監獄事務がある。國民の一部が牢に打ち込まれどんな生活をして居り、否、どんな生活、習慣、思想を有する所からして、斯の如く罪を犯すに至つたかの經過と事情を視察し、考慮することは、内務大臣の本來の責任である。日本ではこのことは内務省になくして、當然司法省の管内に在る。

米國には内務省が有るのか、無いのか、無いだらうとさへ言ふ人があるが、私はデパートメント・オブ・ゼインテリオルが即ち内務省であらうと解して居る。が、その所管の仕事は土地に關する事、印度人に關する事等を主位に置き、恩給のこと、特許のこと、教育のこと、測量のこと、鑄貨のこと、國立公園のこ

と其の他があつて、日本の内務省とはほとんど全く組織を異にして居る。従つて日本の内務省といへば即ち選舉省、選舉がその最重要の職務であると解して居る。解せられて居るのは全く趣が異なる。

以上は英米のことである。英米のことは日本のことでない。何も例とするに足らぬといふ人にはそれでも宜しい。それはその通りであるとして、しかも内務といふ概念の内容に或はその作り方に斯様な相違のあることは、これで以ても大凡明白である。

そこで日本の内務に返つて、日本の内務は何をして居る所、何をすべき所であるとするの概念が、多數國民の間にあるであらう。

最も明白なのは前に掲げた選舉のことである。選舉は内務省のすることである。内務省の所管事務の内、その最も大切な、そして有力なのはそれであるといふ概念、即ち内閣の運命、政府與黨の運命がそれにかゝつて居る、それ程内務省は有力な役所である。有力な大臣、政黨員の居るべき所、現に内閣の副總理の居るべき所とする意向が、近來殊に明白になつて來た。しかし内務省がその如く解せられて居ることは果して適當であらうか、何人にも疑ひがあらう。

三

私はその選舉のことに關しては、獨立の選舉省を設けて、最も公平に處理したら可からうと唱へて

居る。それは別。

その他現在の内務省所管の事務の中でもつと大きくすべく、もつと小さくすべく、他省に移すべく、他省から取り入るべく、いろいろ改造する。即ちいはゆる再考慮する必要のあるものが、いくつもある。が、それも本論の外。

内務省が現に所管して居る道路の事業は、一省として別に獨立の省を設けて、專一に管理すべき施設すべき努力すべき必要のあるものであるまいか。それは日本の道路事業をより刷新し、より發展せしめ従つて日本の國富國力を開發せしむる上に相當の効果のあり、期待のかけらるべきものであるまいか。

勿論道路は獨り中央政府の事業でない。府縣と市町村との責任にも屬する廣範圍の事業である。それ故私は獨りこれを中央政府の事だけとして申さない。政府の機關の中に道路省を新設することは、中央政府内の事であるとしても、同時に私はその趣意が府縣にも、市町村にも能く領解せられ、府縣と市町村のそれらの機關が例へば府縣市町村に於る兵役事務の取扱ひが陸海軍省と直接の關係を有つて居り、整然として一律に取り扱はれて居る如くならんことを望む。それには幾多の改正が行はれねばならない、私はその行はれんことを望む。それらの規模の擴張若くは分合と改造統整を加へての道路省である。その道路省の設立が必要であるまいか。語を切にして言へば、この際道路省を新設して日本の道路行政の刷新、道路事業の擴張を圖ることが必要であるまいか。

四

その組織の外に私は人民の收むる租税を道路のためにいくらかゝると知らしめたいのである。日本の國民は今日その租税が軍部のためにいくら使はれて居り、教育のためにいくら使はれて居るかを知つて居るけれども道路のためにいくら使はれて居るかを知つてゐない。私はそれを知らせたいと思ふ。知らせて置くことが極めて必要であらうと思ふ。

道路省を新設することは、それを知らしめることになるのである。丁度陸軍省の經費が陸軍全體の經費と分り、文部省の經費が教育全體の經費と分かる様に、こゝに道路省があれば道路に關する全體の費用がそれと一目に判然する。私は道路に關する年々の費用、その費ひ方従つて道路の作り方を國民全體に知らしめたいのである。それを知らすれば、國民は道路に關する負擔を惜まなくなり、或はそれは贅澤過ぎるとか派手過ぎるとか姑息であるとか薄弱であるとかもつと堅實にすべきであるとか、大規模にすべきであるとかないとか費用を知り、狀況を知れば、そこに一段の希望が起り、注文が起り、要求が起り、改正が行はるゝ筈である。私はその一方法として道路省の建設を希望するのである。

更に申し添へるが、私は道路の維持改良建設のため、我が日本は一年いくららの經費を要するの、中央から地方に至るまでを一括して知らしめることをも希望する。今後道路省が若し果して建設せ

らるゝに至れば、それらを綜括して整理する一課を置き年々發表せらるゝことにしたい。現在の陸軍省はそれをしてくれない故に陸軍の經費が全國を通じていくらになつて居るかは、陸軍省の豫算決算だけでは分らない。教育の費用が全國に亘りいくらになつて居るかは、文部省の豫算決算だけでは分らない。それだけでは不完全である、それを完全ならしむることにしたい。中央の分は分として、地方の分をも合せて明瞭になる様に注意を加へて貰ひたい、それまでの面倒を見て貰ひたい。道路省は提案にとゞまる。が、提案する道路省のことはこんな心持で提案するのである。國民をしてその全部のことを明瞭に承知せしめ、因てその關心を深からしめんと、希望を以て提案するのである。

五

もう一つ申したい。中央は兎もあれ地方に於ては、その納税を納税の初めから道路のためにいくら教育のためにいくら、勸業のためにいくらと、事業別にして取り立てることが便利であるまいか。意味は前に申した通り、國民をしてその負擔する租税と事業との關係を能く承知せしめたいのである。その趣意に外ならないのであるが、それを明かにして置けば、その明かにされなかつた場合にくらべて納税者は納税を怠らぬ様勵むことになりはしないかと思ふ。私自身の感じからすれば、その様の別がある様である。

それと同様に官吏の費用をも明かにすべきであらう。官吏の數が何人俸給がいくら、事業費との割合が何割になるといふことを知らずれば國民の理解には便利である。議會に對し豫算に對し決算に對する注意が今日までよりは大いに起るであらう。

他のことは他の場合の問題としても、道路省を設け、道路に關する概念を國民の間にもつと明確にせしむることは今日の問題であらうと私は信ずる。道路はもつと改良しなければならぬ。その費用を國民に喜んで負擔せしめなければならぬ。その事情が能く分れば國民は喜んで負擔するであらうと信ずるからである。

道路問題を鳥瞰して其の施設を論ず

藤原俊雄

一 「道」の意義

そも、道路は人の交通と物資の運搬とを敏活ならしめるために必須のものであつて、苟も人間が社會を組織して共同生活を營む場合には、相互の交渉と經濟の循環を滑かにするために、必ず無け